

日本語を母語としない子どもとともに
JSL 日本語指導教育研究会通信
(JSL= Japanese as a second language)

令和4年 第8号
発行者 会長 瀬村 進
日本語指導教育研究会 事務局

○第8回研修会（オンライン開催）

全体研修 DLA についての研修

今回の研修は、「DLA」についての研修でした。「DLA」とは、「Dialogic Language Assessment」の略です。文化的、言語的に多様な背景を持つ年少者の言語能力を、マンツーマンによる対話を通して測る支援付き評価ツールです。日常会話はできるが、教科学習に困難さを抱えている児童生徒が対象となります。この研修では、特に「読む」を取りあげ、サンプル教材の分析と評価、および今後の指導に生かす点などについて各グループで交流を行いました。

DLAに関する事前のアンケートでは、「読む」に対する評価の難しさをあげる先生が多かったようです。「読解力と音読の力を客観的に図る点」「評価点の判断が難しい」、「中学生に合う読み物が少ないこと」などの意見があがっていました。また、「読む」の評価で一番大切にしていることは、「読みたくなるようにモチベーションをもたせる」、「子どもの実態が的確にとらえられているか」、「物語であればだいたいのあらすじと人物の心情が分かること。説明文であれば、「問い」の答えがつかめること」、「質問が詰問にならないよう、読んで考えたことを表現するためのスキャフォールディングに気をつけている」などがありました。

実際の研修では、サンプル教材としてNPO多言語多読「涙の力」という読み物で、5人の生徒の発話資料（文字をおこしたもの）をもとに分析と評価を行いました。

- ・ 評価するときの基準（あらすじの理解を大切にするのか、話すときの文法を大切にするか等）によって評価が大きく異なることを念頭において評価しなければならないと感じます。同じグループの先生に「あらすじの再生」を評価する際に大切なこと（キーワードの設定）を教えてくださいました。
- ・ 今回のワークショップでは、書き起こし文をもとにしていたこともあって、文法上のミスに目が行きがちでした。実際には、対応しながら「あらすじをよくとらえているか」という視点で評価しながら、文法の誤用はリキャストしている。
- ・ グループワークで自分の基準の見直しをすることができました。
- ・ DLAの評価についてグループで話し合った時に、テーマ・物語のメッセージを正しく理解できているかという項目は、個々の教師の価値観に左右されることが分かった。

小・中部会 小学校 「特別支援について」
 中学校 「進路について」

- ・ 特別な支援を必要とする児童への対応について吉永先生の具体的な実践を聞くことができ、学校との連携の大切さがよく分かった。
- ・ 特別支援が必要な児童については、日本語指導の時の様子をよく観察し、在籍校に伝えることしかできないと思う。こちらで結論づけることがないよう十分に配慮が必要であると思う。
- ・ 私立高校の受験に関する様々な情報を交換することができた。
- ・ 外国人児童生徒があまり受験しないような高校について情報を共有することができた。